

《論文》

中学校における剣道の授業改善の試みと成果

柴田 一浩, 根本 真希

The trial and result of an effect to improve a kendo lesson at junior high school

Kazuhiro SHIBATA, Maki NEMOTO

キーワード：武道必修化, 剣道, 攻防の楽しさ, 教材づくり, 授業研究

要約

平成24年度から中学校1・2年で武道が必修化されたが、これまでは、ダンスとの選択必修であったために、施設や用具が整備されていない学校では実施されていない状況にあった。また、剣道は竹刀を用いて相手と直接的に攻防し合うので、安全に留意するあまり基本動作や基本打突の練習で単元が終了してしまい、攻防の楽しさを十分に味わわせることができないという課題があった。そのため、相手を攻撃したり、相手の技を防御したりすることで勝敗を競い合う楽しさや喜びを味わうことができる剣道の特性に十分に触れさせる教材づくりが求められている。

そこで、中学校2年生を対象に、剣道を専門としない保健体育科の教員と授業研究を行い、指導計画及び指導内容について検証した。その結果、攻撃と防御の役割を交代したり、打つ部位を制限したりして試合を行うと、判断がしやすくなるために打つ機会が保障され、攻防の楽しさを味わわせることができることが明らかになった。

I. 緒言

1. これまでの武道の取り扱い

平成20年3月に学習指導要領が告示され、平成24年度から中学校において武道が必修化となった。これまでは、武道はダンスとの選択必修であったため、武道を履修しない生徒もいた。

また、従前の学習指導要領では、「技能」の内容が「基本動作」、「対人的技能」、「試合」で構成されていたために、基本動作の学習と対人的技能の学習を分けて実践する事例が多く見られた。このことを改善するために、新学習指導要領では、対人的技能と関連付けて一体的に扱うように明記されている。

従前から学習指導要領には、武道として柔道、剣道、相撲が示されており、平成20年度の文部科学省の調査によると、全国での各種目の実施率は柔道が約60%、剣道が約30%、相撲その他が約10%と報告されているが、安全面の確保から柔道に対して剣道の実施率が高くなることが予想される。

2. これまでの剣道の授業実践とその問題点

従前、武道はダンスとの選択必修であったために、武道場などの施設や柔道着や剣道具などの用具が整備されていない学校では授業が実施されていない状況にあった。

また、従前の学習指導要領では、「技能」の内容が「基本動作」、「対人的技能」、「試合」で構成されていたために、基本動作の学習を終了してから対人的技能の学習、そして試合という指導過程で実践されていたために、対人的スポーツの特性である「攻防する楽しさ」を味わう機会である「試合」を取り扱わない現状が見られた。

さらに、剣道は、中学校で初めて学習する生徒がほとんどであることや、相手と直接的に攻防し合うため安全面に留意する必要があることなどから、教師の一斉指導中心の体さばきや素振り、基本打突などの基本動作の学習に、ほとんどの時間を費やし単元が終了してしまう。

また、対人的技能を指導する際、打つ機会を十分に理解させないまま試合を行うために、生徒は練習した技を試合に生かすことができず、攻防の楽しさを十分に味わうことができないまま単元が終了してしまうような授業実践が少なくない。

そのため、相手を攻撃したり、相手の技を防御したりすることで勝敗を競い合う楽しさや喜

びを味わうことができる、剣道の特性に十分に触れさせる教材づくりが求められている。

平成23年に茨城県内の中学校で、剣道を専門としない保健体育教師の授業サポートの機会を得た。生徒とかかわる中で、剣道具の装着に時間がかかることや、互いに打ち合うことに恐怖心を抱いていること、そして、打突の機会が分からないという実態が明らかになった。このようなことから、生徒たちに限られた授業時間で、相手を攻撃したり防御したりする楽しさを十分に味わわせ、我が国固有の伝統文化に触れさせる指導計画を作成する必要があることを再確認した。

そこで、単元のはじめから基本打突の判定試合を取り入れたり、打つ機会を保障するために攻撃と防御を交代で行う試合を取り入れたりして、攻防の楽しさを味わうことができる剣道の教材づくりを中心に指導内容を検討することとした。

3. 研究目的及び課題

(1) 研究目的

本研究では、中学校の剣道授業において攻防の楽しさを味わわせることができるようにするための教材と授業展開を検討する。

(2) 研究課題

- A. 単元計画及び指導案の作成（中学校第2学年10時間取り扱い）
- B. 作成した指導計画の実施

II. 研究の意義、仮設

1. 研究の意義

平成24年度から中学校第1学年及び第2学年において、武道を含むすべての領域が必修とな

り、男女を問わずすべての生徒が武道を履修することとなった。中学校学習指導要領には、剣道では、相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技を用いて、打ったり受けたりするなどの攻防を展開することと示されている。つまり、対人的スポーツである剣道の特性の一つである「攻防する楽しさ」を味わわせる必要がある。

そこで、単元のはじめから基本打突の判定試合を取り入れたり、打つ機会を保障するために攻撃と防御を交代で行う試合を取り入れたりして、攻防の楽しさを味わうことができる剣道の教材が効果的であるかを検討することは有意義である。

2. 研究の仮説

単元のはじめから基本打突の判定試合を取り入れたり、打つ機会を保障するために攻撃と防御を交代で行う試合を取り入れたりする教材を提供し、指導過程を工夫すれば、剣道の攻防の楽しさを味わわせることができるであろう。

Ⅲ. 研究の方法

A. 単元計画及び指導案の作成

1. 対象

中学校第2学年男女

2. 作成の手順

単元計画及び指導案については、平成20年9月に改訂された中学校学習指導要領をもとに、第2学年での学習内容を特定する。

「技能」については、中学校学習指導要領解説保健体育編（以下「解説」と略す）の例示をもとに学年ごとの学習内容を特定した。

「態度」については、学習指導要領の第1学年及び第2学年の内容を学年ごとに割り振り、「愛好的態度」、「公正」、「責任」、「健康・安全」、「協力」の5つに分けて学習内容を特定した。

「知識、思考・判断」については、学習指導要領の内容をもとに学年ごとの学習内容を特定した。

B. 作成した指導計画の実施

1. 対象校

茨城県公立A中学校第2学年男女

2. 指導者

教職歴7年 男性教諭

3. 期間

平成24年9月24日～10月23日

4. 評価方法

(1) 診断・総括的授業評価からみた単元計画及び授業に対する評価

単元前にアンケートにより、実態調査を実施し、単元計画や指導過程を検討することで、効果的な指導ができるようにする。

また、単元終了後にも同様のアンケートにより、生徒の変容及び授業の成果について明らかにする（表1）。

(2) 形成的授業評価

毎時間の指導の成果を見るためにアンケートを行い、学習状況を把握し、授業や指導の手立ての改善を図る（表2, 3, 4）。

表1 総括的授業評価（単元後）

| | |
|---------|--------------------------------------|
| 技能 | ①剣道の授業では、1年で習った技（面や胴打ち）がより上手にできましたか。 |
| | ②剣道の授業では、新しい技を身に付けることができましたか。 |
| | ③自分の思い通りに攻めたり守ったりすることができましたか。 |
| | ④試合で自分の得意な技で打つことができましたか。 |
| | ⑤相手の打ちを受けたり交わしたりすることができましたか。 |
| 態度 | ⑥剣道の授業は楽しかったですか。 |
| | ⑦剣道の授業では、相手を思いやる気持ちで練習できましたか。 |
| | ⑧剣道の授業では、何回も練習できましたか。 |
| | ⑨剣道の授業では、安全に気をつけて練習できましたか。 |
| 知識、思考判断 | ⑩剣道の技の名前や技の動き方を知っていますか。 |
| | ⑪剣道は「礼を大切にする」という考え方を知っていますか。 |
| | ⑫剣道をするるとどのような体力が高まるか知っていますか。 |

表2 技能について

| | |
|------|--------------------------------|
| 1時限目 | ①面を打つことができましたか。 |
| | ②相手の面打ちを受けることができましたか。 |
| 2時限目 | ①面を打つことができましたか。 |
| | ②胴を打つことができましたか。 |
| 3時限目 | ①小手・面を打つことができましたか。 |
| | ②払い面を打つことができましたか。 |
| 4時限目 | ①面抜き胴を打つことができましたか。 |
| | ②面抜き胴の動き方が分かりましたか。 |
| 5時限目 | ①面抜き胴を打つことができましたか。 |
| | ②ねらい通りに胴を打つことができましたか。 |
| 6時限目 | ①小手を打つことができましたか。 |
| | ②小手の打ち方が分かりましたか。 |
| 7時限目 | ①小手抜き面を打つことができましたか。 |
| 8時限目 | ①自分から技を打つことができましたか。 |
| | ②相手の技に対して打つことができましたか。 |
| | ③今までできなかった技に挑戦することができましたか。 |
| 9時限目 | ①自分の思った通りに攻めたり守ったりすることができましたか。 |
| | ②試合で自分の得意な技で打つことができましたか。 |
| | ③相手の打ちを受けたりかわしたりすることができましたか。 |

表3 態度についての項目（毎時間共通）

| |
|----------------------------|
| ①楽しかったですか。 |
| ②自分のめあてにむかって何回も練習できましたか。 |
| ③友だちと協力して、なかよく学習できましたか。 |
| ④相手を思いやる気持ちで練習できましたか。 |
| ⑤安全に気を付けて練習できましたか。 |
| ⑥攻防の楽しさを味わうことができましたか。 |
| ⑦今までできなかった技に挑戦することができましたか。 |

表4 知識、思考・判断について

| | |
|------|---|
| 1時限目 | ①面打ちのポイントを見付けることができましたか。 |
| 2時限目 | ①胴打ちのポイントを見付けることができましたか。 ②胴の受け方が分かりましたか。 |
| 3時限目 | ①小手・面のポイントを見付けることができましたか。 ②払い面のポイントを見付けることができましたか。 |
| 4時限目 | ①面抜き胴の動き方のポイントを見付けることができましたか。 ②剣道の練習をすると竹刀を思い通りに動かせるようになると思いますか。 |
| 5時限目 | ①面抜き胴の動き方のポイントを見付けることができましたか。 ②剣道の練習をすると竹刀を思い通りに動かせるようになると思いますか。 |
| 6時限目 | ①小手の打ち方のポイントを見付けることができましたか。 ②剣道の練習をすると竹刀を思い通りに動かせるようになると思いますか。 |
| 7時限目 | ①小手抜き面の動き方が分かりましたか。 ②小手抜き面の動き方のポイントを見付けることができましたか。 ③剣道の練習をすると竹刀を思い通りに動かせるようになると思いますか。 |
| 8時限目 | ①技のポイントを見付けることができましたか。 |

IV. 結果と考察

A. 単元計画及び指導案

1. 中学校第2学年の指導内容の特定

- ① 「技能」については、解説の例示を手がかりに指導内容を特定した（表5）。
- ② 「態度」については、解説の内容を手がかりに「愛好的態度」「公正」「責任」「協

力」の4項目について指導内容を特定した（表6）。

- ③ 「知識、思考・判断」については、解説の例示及び内容を手がかりに指導内容を特定した（表7）。

表5 「技能」の指導内容（第1学年及び第2学年）

| 学習指導要領の表現 | | 学習指導要領解説の表現 | 例示（大枠の学習内容） | | 第1学年 | 第2学年 |
|--------------------------|----------------------|--|-------------------------|------|------|------|
| 技ができる楽しさや喜びを味わう | 相手の動きに応じた基本動作 | 相手の動きに応じて行う構えと体さばき | 相手の動きに応じた自然体での中段の構え | | ○ | ○ |
| | | | 相手の動きに応じた歩み足や送り足 | | ○ | ○ |
| | | 基本打突の仕方と受け方 | 面の打ち方とその受け方 | | ○ | ○ |
| | | | 胴の打ち方とその受け方 | | ○ | ○ |
| | | | 小手の打ち方とその受け方 | | | ○ |
| | | 基本となる技 | しかけ技の基本となる技 | 二段の技 | 小手－面 | ○ |
| | 面－胴 | | | | ○ | |
| | 引き技 | | | 引き面 | | |
| | | | | 引き胴 | | |
| | 払い技 | | 払い面 | ○ | ○ | |
| | 応じ技の基本となる技 | | 抜き技 | 面抜き胴 | ○ | ○ |
| | | 小手抜き面 | | | ○ | |
| | 打ったり受けたりするなどの攻防を展開する | 自由練習やごく簡単な試合で、相手の動きに応じた基本動作を行いながら、しかけ技の基本となる技や応じ技の基本となる技を用いて、打ったり受けたりする攻防を展開すること | 技の形を正しく行うこと | | ○ | ○ |
| | | | 体さばきを用いて相手の構えを崩して打突すること | | ○ | ○ |
| 体さばきを用いて相手の打突をかわして打突すること | | | ○ | ○ | | |

※「払い技」は第3学年の学習内容であるが、打ち込む隙がないときに相手の竹刀を払って打つことから第1・2学年でも取り入れることとした。そのため引き技は第1学年及び第2学年で例示されているが、本研究では第3学年で取り入れることとした。

表6 「態度」の指導内容（第1学年及び第2学年）

| | 第1学年 | 第2学年 |
|-------|------------|----------------------------|
| 愛好的態度 | 積極的に取り組む | 積極的に取り組む |
| 公正 | | 相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとする |
| 責任 | | 分担した役割を果たそうとする |
| 健康・安全 | 健康・安全に気を配る | |
| 協力 | | ～など 例として、仲間の学習を援助しようとする |

表7 「知識, 思考・判断」の指導内容 (第1学年及び第2学年)

| | 第1学年 | 第2学年 |
|-------|---|--|
| 知識 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 武道の特性や成り立ち ・ 伝統的な考え方 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 技の名称や行い方 ・ 関連して高まる体力 ・ 試合の行い方 |
| 思考・判断 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 技を身に付けるための運動の行い方のポイントを見付けること。 ・ 仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた協力の仕方を見付けること。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 技を身に付けるための運動の行い方のポイントを見付けること。 ・ 課題に応じた練習方法を選ぶこと。 ・ 学習した安全上の留意点を他の練習場面に当てはめること。 |

2. 作成した単元計画及び指導案

(1) 単元計画を作成するにあたっての配慮事項

- ① 10単位時間の指導計画を作成した。
- ② 第1学年で既習した技の復習を3時間行った。
- ③ 毎時間、技の出来映え判定試合や打突部位などの制限を加えた試合などのごく簡単な試合を取り入れた。
- ④ 面抜き胴は第1学年で既習した技であるが、

第2学年では攻防の展開から技を打てるようにするために扱った。

図1は上記をもとに作成した単元計画である。

(2) 指導案を作成するにあたって配慮事項

- ① 毎時間のごく簡単な試合では、第1から第3時では、第1学年の復習を行った。ここでは基本打突を中心に展開したので、技の出来映え判定試合を行った。出来映え判定試合では試合者が受け手に向かって、面打ち、胴打

| 時間 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
|-----------|--------------------------------------|----------------------------|------------------|--------------------------------------|---|---------|------|---|---|----|
| 0分 | 礼法・準備運動・竹刀、剣道具等の点検 | | | | | | | | | |
| | 剣道の知識に関する学習 | | | | | | | | | |
| | 剣道具の準備・装着 | | | | | | | | | |
| オリエンテーション | | | | | | | | | | |
| タッチ剣道 | 基本打突の復習 (面) (胴) | 基本打突の復習 (二段の技) (払い面) | 抜き技の練習 (面抜き胴) | 基本打突の練習 (小手) 抜き技の練習 (小手抜き面) | | | 課題練習 | | | |
| 基本動作の復習 | ごく簡単な試合 (基本打突の判定試合) | | ごく簡単な試合(制限を加えた) | | | ごく簡単な試合 | | | | |
| 50分 | 整理運動・後片づけ・本時のまとめ・学習カードの記入・次時の連絡・礼法など | | | | | | | | | |

図1 作成した単元計画

表7 学習指導案－5時限目

| 本時のねらい | | ・攻防から面抜き胴を打つ機会を見つけよう。(思考・判断) | | |
|--------|--|---|---|---|
| | | ・関連して高まる体力を理解することができる。(知識・理解) | | |
| 準備・資料 | | 竹刀・剣道具・手ぬぐい・学習カード | | |
| 時間 | 学習活動 | 学習内容 | | |
| | | 技能 | 態度 | 知識, 思考・判断 |
| はじめ10分 | <p>1 集合(正座), 挨拶(座礼)</p> <p>・はじめと終わりの挨拶では, 正座をする。</p> <p>・欠席, 見学, 服装を確認する</p> <p>・健康観察を行う。</p> <p>2 本時のねらいを確認</p> <p>3 準備運動</p> | | <p>伝統的な行動の仕方を守ろうとすることができる。</p> <p>健康・安全に気を配ることができる。</p> | |
| なか30分 | <p>4 剣道具を付ける。</p> <p>5 面抜き胴</p> <p>互いに一足一刀の間合で構える。</p> <p>①打ち手・受け手同時に「ヤー」</p> <p>打ち手 一歩入る。</p> <p>受け手 打ち手が一歩入ると同時に一歩下がる。</p> <p>※2回繰り返す</p> <p>②打ち手 一歩入る。</p> <p>受け手 打ち手が一歩入ると同時に面を打つ。</p> <p>打ち手 受け手が打つ面に対して胴を打ち, 右斜め前に進み, 振り返って残心をとる。</p> <p>※はじめは一つ, 一つ確実にゆっくり行い, 慣れてきたら一連の動作で行う。</p> <p>6 簡単な試合(制限を加えた)</p> <p>・5と同様の打ち方で, 胴を打つ人は3歩まで前に出ることができ, 面を打つ人はその3歩までの間に自分のタイミングで面を打つ。</p> <p>※3本中何本当たるか競う。</p> | <p>相手が面を打つとき, 体をかかわして胴が打つことができる。</p> | <p>相手を尊重し伝統的な行動の仕方を守ろうとすることができる。</p> | <p>関連して高まる体力を理解する。(主として巧緻性)</p> |
| | | <p>基本となる技を用いて, 打ったり受けたたりするなどの攻防を展開することができる。</p> | <p>相手を尊重し, 伝統的な行動の仕方を守ろうとすることができる。</p> | <p>関連して高まる体力を理解する。(主として瞬発力, 敏捷性, 巧緻性)</p> |
| まとめ10分 | <p>7 本時のまとめと復習, 次時の確認</p> <p>・学習カードに記入させる。</p> <p>8 座礼</p> <p>9 後片づけ</p> <p>・互いに協力して後片づけをする。</p> | | <p>伝統的な行動の仕方を守ろうとすることができる。</p> <p>分担した役割を果たそうとすることができる。</p> | |

ちをそれぞれ2本ずつ打ち、受け手と役割を交代する。審判者の2人にどちらの技が良かったか判定させた。

- ② 第4, 5時の制限を加えたごく簡単な試合では、受け手が前後の攻防から3歩以内の中で好きなタイミングで面を打たせ、胴を打つ側はその面打ちを交わして胴を打つように約束させた。1人3本勝負とし、胴が何本打てるかを競わせた。
- ③ 第6, 7時の小手抜き面の学習では、小手と抜き面の勝負をさせた。ここでは、面を打たせる側も相手の小手を狙い、相手の動きを良く観察させ、どちらの技が早く当たるかという勝負をさせた。
- ④ 第8時から第10時では、課題学習の時間を設けた。ここでは、3~4人組を作り、グループ内で有効打突を取るための作戦を立てさせた。その結果を「隙をみせる→誘う→打つ」の3段階に分けて検討した作戦を学習カードに記入させ、代表者に発表させた。
- ⑤ 関連して高まる体力について授業で触れるために、作成した学習指導案、シナリオに生徒が理解しやすいような発問を取り入れた(表7)。

B. 作成した指導計画の形成的授業評価の結果

1. 技能について

基本打突の面打ちの学習では、第1時よりも第2時の方が評価は高かった。また、胴打ち、小手打ちの学習でも評価が高かった。抜き技の学習では、面抜き胴は3.71、小手抜き面は3.66と高い値を示した。このことから、相手の動きをかわして打つ応じ技の学習の評価が高いことが分かった。

第8時では攻防交代型の試合を行ったが、概ね評価が高かった。

第9, 10時では、自由練習を行った。「自分の思った通りに攻めたり守ったりすることができましたか」の評価については、第9時は3.31で、第10時は3.24と評価が少し下がった。これは、第10時では、第9時の自由練習を踏まえた作戦を立てる時間を設けたために、実践の時間が短かったことが考えられる。

「試合で自分の得意技で打つことができましたか」では、第9時よりも第10時の評価の方が高かった。

「相手の打ちを受けたり交わしたりすることができましたか」では、評価は変わらなかった。

2. 攻防について

第8時では攻防について、「試合で自分の思った通りに攻めたり守ったりすることができたか」を質問した。「できた」と「どちらかといえばできた」を合わせると30人であったことから、ほとんどの生徒が自分の思った通りに攻めたり守ったりすることができたと考えられる(図2)。

また、「攻防の楽しさについて味わうことができたか」を質問した。「できた」と「どちらかといえばできた」を合わせると31人であったことから、攻防の楽しさをほとんどの生徒が味わえたということが考えられる(図3)。

3. 態度について

毎時間の授業後に「態度」について5項目の質問をし、項目は毎時間同じとした(表8)。

「楽しかったですか」については、第1から第3時では、1年次の復習で新しい学習がなかったので評価が低かったと考えられる。

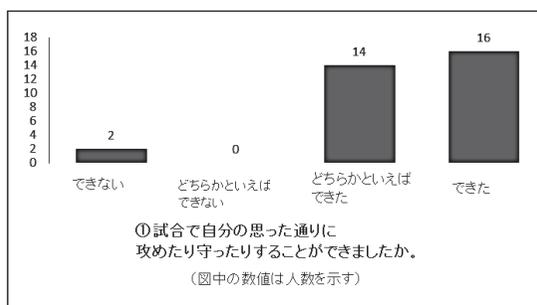


図2 攻防の技能に関する評価 (第8時)

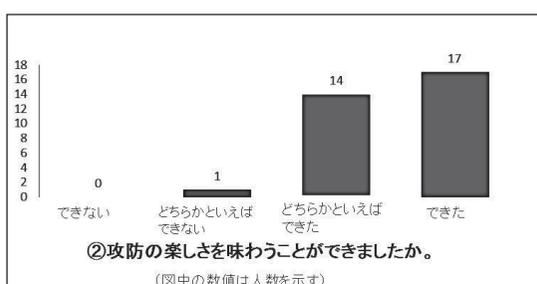


図3 攻防の楽しさの評価 (第8時)

表8 楽しさに関する形成的授業評価

| 楽しかったですか。(4点満点) | | | | | | | |
|-----------------|------|------|------|------|------|------|------|
| 1時間目 | 2時間目 | 3時間目 | 4時間目 | 6時間目 | 7時間目 | 8時間目 | 9時間目 |
| 3.16 | 3.21 | 3.19 | 3.39 | 3.33 | 3.66 | 3.57 | 3.49 |

第4時では、面抜き胴を中心とし、面と胴のごく簡単な試合に時間を多く設けたことから評価が高かったと考えられる。

第6時では、小手打ちの学習を中心に行った。初めての学習であるために、打ち方と受け方の説明をし、攻防を味わう時間が少なかったことから評価が低かったと考えられる。

第7時では、小手抜き面の学習を行った。小手と面のごく簡単な試合を取り入れ、攻防をし合うことができたことから評価が高かったと考えられる。

第8時から第10時では、攻防交代型の試合や自由練習を実施したため、互いに攻防をし合っ

たことから、評価が高かったと考えられる。

なお、第9時に評価が低かったのは、作戦を立てる時間を設けたために実践の時間が短かったためと考えられる。また、第3時の評価が低かったのは、実施日の気温が高かったため、剣道具を着けている時間を短くしたためではないかと考えられる。

V. 結論

本研究では、単元のはじめの段階からごく簡単な試合を取り入れたり、打突の機会を保障するために攻撃と防御を交代するなどの工夫をし

たりして、剣道の「攻防の楽しさ」を味わわせることに焦点を当てた授業実践をし、教材の有効性について検証した。その結果、次の3点が示唆された。

- ① 単元の最初の段階からごく簡単な試を取り入れることは、剣道の楽しさを味わわせることに有効である。
- ② 技の練習では、相手の打ちをかわして打つ「面抜き胴」と「小手抜き面」の評価が高いので、面打ちなどの基本打突と関連づけて指導すると効果的である。
- ③ 攻撃と防御の役割を交代したり、打つ部位

を制限したりして試合を行うと、判断がしやすくなるために打つ機会が保障され、攻防の楽しさを味わわせることができる。

参考文献

- 文部科学省（2008）中学校学習指導要領解説保健体育編. Pp99-117
- 柴田一浩（2010）武道の教材づくり・授業づくり. 高橋ら編. 新版体育科教育学入門. 大修館書店. pp.171-178
- 岩田靖（2010）体育の教材・教具論. 高橋ら編. 新版体育科教育学入門. 大修館書店. pp.54-60
- 岩田靖・中村泰之・三井清喜（2009）「対人的技能の面白さ」をクローズアップする—剣道の教材づくり—. 体育科教育57(9)：62-67